

令和 3年 9月

鎌田裕司 学位論文審査要旨

主査 花島律子
副主査 前垣義弘
同 藤井進也

主論文

Computed diffusion-weighted imaging for acute pediatric encephalitis/encephalopathy

(小児の急性脳炎及び脳症に対する計算された拡散強調画像)

(著者：鎌田裕司、篠原祐樹、久家圭太、坪内祥子、斎藤義朗、前垣義弘、藤井進也、
小川敏英)

令和元年 Acta Radiologica 60巻 1341頁～1347頁

参考論文

1. 髄液漏を伴ったGorham-Stout病の一例

(著者：鎌田裕司、篠原祐樹、加藤亜結美、國本泰臣、藤井進也、黒崎雅道、
小川敏英)

平成30年 CI研究 40巻 81頁～85頁

審査結果の要旨

本研究は小児急性脳炎・脳症患のMRIについて、2つ以上の低いb値のDWIから仮想的に計算したcomputed DWI (cDWI) $b=3000$ の有用性を、実際に撮影したacquired DWI (aDWI) $b=1000$ 及び $b=3000$ と比較し検討したものである。その結果、cDWI $b=3000$ はaDWI $b=1000$ と比較して、定性的評価において22例中19例で病変の描出に優れており、定量的評価においてもaDWI $b=1000$ と比較して良好な信号強度比を呈していた。また、aDWI $b=3000$ との比較では定性的評価、定量的評価ともに同等であった。これらの結果よりcDWIは小児急性脳炎・脳症病変の検出に有用であることが示された。本論文の内容は、小児急性脳炎・脳症に対するcDWIの有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。